

あいづわかまつ 文化財だより

受け継がれ引き継いでいく文化財の今を情報発信

発行
会津若松市教育委員会
編集
会津若松市教育委員会文化課
〒965-0871 会津若松市栄町5番17号
☎0242-39-1305

第21号
平成26年4月1日
(2014)



わたしたちの学校の下に武家屋敷があった!! 鶴城小学校発掘調査

改築工事が計画されている鶴城小学校(東栄町)。江戸時代には、重臣の住まいが立ち並んでいました。工事に先立って、会津藩士の小原内記邸・日向弥志摩邸が発掘調査されました。



上) 2時間の体験でもたくさんの瓦が出てきました

発掘調査が進む10日には鶴城小6年生が体験学習に訪れました。学び舎の発掘に、最初は緊張気味でしたが、土器や瓦が見つかるたびに、にぎやかな歓声が上がりました。



上) 「この場所に体育館があったよ」思い出を振り返りながら、掘り進めます

左) みんなで力を合わせて掘りました。小学校の歴史に直に触れることができました

会津藩の城下町は、鶴ヶ城を中心として、町割りが行われていました。第一に戦時の防御体制が考えられ、城下町全体が堀と土塁で囲まれていました。東西約1782m、南北約1273mと東西に長く囲まれ、その中に藩士の屋敷、藩に関する施設などが置かれました。この広い範囲が、「若松城郭内武家屋敷跡」として、埋蔵文化財包蔵地、遺跡となっています。今まで行われた武家屋敷の発掘調査では、門跡、建物跡、井戸、池、区画溝などが確認され、当時の屋敷の様子が見えてきています。

今回の発掘調査でも、3棟の建物跡、井戸や池など、多くの遺構ととも、上級武士の生活ぶりをうかがわせる陶磁器、漆製品、古銭などが出土しました。



左上) 江戸時代の会津藩城下町。土塁と堀に囲まれた中を郭内、その外側を郭外と呼びました
右上) ひもなどで束ねられた状態の古銭
右下) 鉢の裏には、小原家の家紋が記されていました

鶴城小学校6年 宍戸希美さん

発掘体験をして感じたことは、大きく分けて2つあります。

1つ目は、鶴城小の下に江戸時代の井戸やかから、食器などがたくさん埋まっていた、びっくりしました。5年生まで、プールの下に井戸があるとは知らずに、スイスイ泳いでいたことが信じられません。

2つ目は、発掘体験といっても2時間だけだったのに、たくさんの物が出てきて、楽しかったです。また、何か1つ見つけたら、友達と協力して掘ることができ、絆を深められました。

こんなに楽しい体験をさせていただき、ありがとうございました。



右) 庭園南東部分から眺めた御茶屋御殿
上) 御殿から眺めると庭園の景観を存分に楽しむことができます



おやくえん
御薬園
おちゃやごてん
御茶屋御殿

東日本大震災による被害と長い年月の間に進んだ破損を修復していきます

文化財を守る

文化財を将来に向けて守るために適切な修復が必要です

第60回文化財防火デー 1月26日



1月26日は、昭和24年に文化財保護法制定のきっかけとなった、法隆寺金堂の壁画が焼失した日です。この日を「文化財防火デー」と定め、今回で60回目を迎えました。

御薬園の御茶屋御殿から出火した想定で行われた防火訓練では、改めて貴重な文化財を引き継ぐ責任を感じました。

御薬園は「会津松平氏庭園」として国名勝に指定されています。心字の池のほとりを巡りながら、景色の変化を楽しむ庭園ですが、その中で景観を作り出しているものの1つが「御茶屋御殿」です。御殿は鑑賞ポイントとして重要な建物となっています。

この建物は、庭園が整備された江戸時代に建築された茅葺屋根部分と、その北側に、九代藩主の容保公が明治期に住まいとした増築部分の二階建屋から成ります。東日本大震災では、壁が剥がれ落ちるなどの被害がありました。応急的な修理をしましたが、長年の使用で劣化した部分と併せ、26年度から年次的に修復工事に取り組みます。

将来に貴重な文化財を残すための工事ですので、ご理解をお願いします。



上) 応急工事による壁の補修
左) 震災時の御殿内部
右) 震災時の御茶屋御殿玄関部分も含め、明治期の増築と考えられます

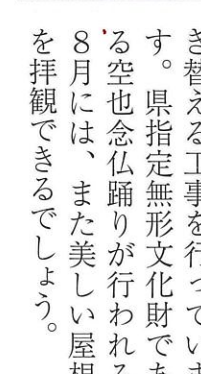
院内御廟 歴史散策会 7つの謎の 答えだよ

- 一、会津藩初代保科正之公の子である正頼(まさより)が明暦3(1657)年に亡くなると、その埋葬場所として、南向きで良い清水が出る、という理由から選ばれました。
- 二、西之御庭・中之御庭には、藩主の家族の墓があります。二代藩主のみが仏式で葬られたためです。他の藩主は神式の形で葬られています。
- 三、想像上の動物が碑石の台座となっており、亀趺坐(かみふし)といえます。藩主の墓を守っています。
- 四、今の河東町八田野地区から、冬にソリで運ばれたそうです。
- 五、約40年前、西郷家の鳥瞰図(ちやうかんず)が見つかったことがきっかけです。
- 六、家老(かろう)職です。藩の実務の最高責任者です。

院内御廟に新しい説明板とパンフレットを配るボックスが設置されたよ。暖かい季節におでかけしてね。



修復前



修復後

大般若経は、自在院が創建された康暦元年(1337)から伝わっており、県内最古と言われています。「大般若経会」とよばれる法要で読まれてきました。劣化の進む状態でしたが、平成17年度より平安時代の経典から修復を行ってきました。25年度は公益財団法人「朝日新聞文化財団」の助成を受け、全600巻の修復が終了しました。

だいはんにゃきょう 大般若経 自在院

自在院では県指定重要文化財「大般若経」を7年かけて修復しました



空也上人による康保元年(964)創建の御堂が戦火で焼失し、文禄年間(1592頃)に再建されたと伝えられています

はちようじ 八葉寺 あみだどう 阿弥陀堂 河東町

25・26年度と八葉寺阿弥陀堂の屋根の修復工事が行われます

出前講座

申込・問合せ先
生涯学習センター
TEL.22-4700



郷土の歴史の話を聞きたい、発掘調査から出土した土器を見てみたい、古墳やまちなかの史跡を歩いてみたい。そうした歴史や文化財を学ぶ機会に、文化課職員が出張して、学習のお手伝いをしています。会津若松市内に在住、在勤又は在学する概ね10人以上のグループ、団体の申し込みを受付けています。

7つの謎

- この場所が御廟に選ばれた理由
- 西之御庭、中之御庭に埋葬されたのは？
- 二代藩主に戒名がある理由
- 亀に似た石の名前と役割
- 巨大な石は、どこから、どうやって運ばれた？
- 「会津武家屋敷」施設が作られたきっかけは？
- 西郷頼母の会津藩での役職は？

答は4ページを
見てください！

今回で5回目となった散策会。出発前に受け取った巻物の中に7つの謎が書いてありました。御廟の成り立ちや歴史、会津武家屋敷にちなんだ謎です。散策を始めてみると、あちこちに解説板が置いてあり、そこで「きふくん」が答えのヒントをくれます。こうして、御廟に登った後には、会津武家屋敷に向かいます。武家屋敷を探索しながら、また謎に答えて、ゴールです。

ゴールでは、「仕の掟」が書かれた記念品を受け取り、会津の歴史を楽しむ1日となりました。

**院内御廟
歴史
散策会**

8月4日
院内御廟・会津武家屋敷
2つの歴史スポットを巡る
歴史散策会



今回は、御廟の後に「会津武家屋敷」まで散策しながら、謎解きを楽しみました

文化財とは、長い歴史の中で生まれ、育まれ、今日まで守り伝えられてきた貴重な財産です。会津若松市にもたくさん文化財があります。この文化財は、今もなお人びとに新しい感動を与えてくれています。魅力ある文化財が多くあるということは、それだけ多くの魅力ある人たちが生きてきたということなのです。

文化財を知ることが、歴史を知ることに繋がります。市では、文化財を紹介する取り組みを行っています。

**ふれてみよう！
文化財を守り
続けてきた
匠の技**

10月26・27日
鶴ヶ城体育館 主催：文化庁
文化財を支える伝統の技が
全国から集まりました



上) 浮世絵木版画を彫り、色刷りする技術の披露
右下) 神社のお社で神様が座られる伝統的な量の製作
左下) 川南小彼岸獅子クラブによる獅子舞

文化財を守るためには、伝統的な修理方法や道具、材料を作る技術も守る必要があります。文化庁では、「その技を「選定保存技術」として選定しています。

普段は目にするこの難しい熟練の技術。先人から受け継がれてきた、貴重な技です。当日は、29団体が一堂に会し、その技を披露しました。本市からは、かんしょ踊り（かんしょ踊り保存会）、白虎隊剣舞（若松第一幼稚園）、小松彼岸獅子舞（川南小）を披露しました。

文化財を見る、知る、触れる

**会津大塚山
古墳
講演会**

10月13日
福島県立博物館
一箕町にある国史跡の前方後円墳。その歴史に迫りました



講演では、大塚山の埋葬者像にも迫りました

昭和39年に発掘調査が行われ、豊富な副葬品の発見で、当時の新聞紙上を賑わせた会津大塚山古墳。この時、大学院生として調査に加わり、調査報告書の執筆もされた伊藤玄三氏による講演が行われました。

調査当時のエピソードや他の古墳の調査例を話され、古墳に葬られたのは、古墳文化を持つ移住集団の首長ではないか、との説が披露されました。講演会後のギャラリートークでは、古墳の出土品を見学し、古代のロマンに触れました。



金箱の残る瓦（赤丸囲い部分）。赤く塗られているのは漆で、この部分にも金箱があった可能性があります

**若松城郭内
武家屋敷跡
城前**

城前団地の建替えに伴い、代々家老職を務めた築瀬三左衛門の屋敷跡を発掘調査しました。調査では、屋敷の建物跡となる柱穴や井戸、池の跡を確認しました。

お椀や皿などの陶磁器、漆器や井戸の滑車、筆と墨壺を組み合わせた筆記用具である矢立、銭など当時の生活の様子を物語る出土品がありました。なかには、上級武士の暮らしぶりをうかがわせる茶器などもあります。このほか、武家屋敷では使用されない金箔の瓦が出土し、なぜここから出土したのか、検討が待たれます。



梵鐘を作るための鑄型の破片。土製で、鐘の文様となる線が彫られています

今から約1,200年前の平安時代初めの工房跡が発見されました。この工房では、鉄などの金属製品を作る鑄物生産を行っていたようです。鉄を溶かす炉の破片や鉄くずを廃棄する穴の中から、梵鐘の鑄型が出土しました。梵鐘は、寺院などで使用される釣鐘で、仏具を生産していたことがわかります。

当時の中央政府が仏教による政治を推し進める中で、古代の会津郡でも仏教活動が行われていた証拠となる出土品です。

**郡山遺跡
河東町郡山**



文化財を掘る

25年度の発掘調査の成果です

**発掘調査に従事する
臨時職員募集**

平成26年度中に会津若松市内で行われる発掘調査に従事する臨時職員を募集しています。勤務条件などの詳細は、文化課TEL.39-1305までお問い合わせください。



上) 鶴城小で井戸跡の見学
左下) 出土した漆製品の観察
左下) 詳しい説明を聞きます

遺跡の現地説明会を開いて、発掘調査の成果を実際に見ることのできる機会としていきます。12月1日には、鶴城小と城前の武家屋敷跡の調査成果を説明しました。当日は、約200名の参加があり、上級武士の暮らしに触れました。

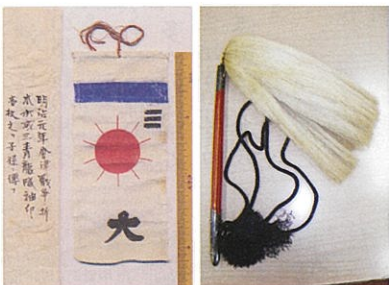
発掘調査説明会

**旧会津図書館施設が
歴史資料センター
として
リニューアルオープンします**

1月まで大河ドラマ館として使われた旧会津図書館は、会津の歴史や文化、先人のことを楽しく学べる施設として、今年の夏頃に仮オープンします。

身近な歴史について調べる窓口として、また、貴重な資料を収集、保管、調査する施設として、ただ今準備が進んでいます。

どなたでも気軽に、郷土の歴史に触れられる場所をめざしています。



会津藩で使用されていた「采配」(右)と年齢別に編成された会津藩軍隊の1つ「青龍隊」の袖印(左)。会津藩士のご子孫から寄贈を受けました



寄贈された屏風のうちの1つ「城下絵図」

間近で本物を見ることで、会津の歴史を実感してほしい。そんな思いを込めた歴史資料展示会が開かれました。

展示されたのは、幕末の会津藩の資料です。この時期の資料は、焼失などにあつて失われたものが多くあります。その中で大切に保存されてきた資料が、市に寄贈され、今回の展示となりました。

戊辰戦争時の緊迫感が伝わる手紙や戦時の携帯品も展示され、会津のたどってきた歴史に思いを馳せる機会となりました。

**会津温故知新
資料展**

10月29日～11月4日
会津町方伝承館

「幕末に生きた会津の人々を感じる」をテーマにした歴史資料展